



ピースデポ

平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人: 湯浅一郎 / 住所: 〒223-0062 横浜市港北区大豆戸町1020-5 第4西山ビル304
TEL: 045-633-1796 / FAX: 045-633-1797 / E-mail: office@peacedepot.org
郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

No.55

2024.12.1

2024年度、次期代表の模索を続けつつ、

新たな体制のもと事業3本柱を継続

代表代行 高木規行

ピースデポ代表代行の高木です。2月の第25回総会で代表不在での運営を決定してから1年弱になりますが、皆様の温かいご支援のおかげで、ピースデポ3つの事業も無事に続ける事ができて感謝の限りです。もちろんピースデポの活動理念である「7つの柱」を堅持し、方向性を示して引っ張って下さるリーダーシップのある次期代表を探す旅路は今も続いております。

運営方法については今年度より理事も日常的に運営に関わる運営会議を毎月2回、理事5名と事務方の渡辺、役重ら実際にピースデポの活動を支えている人を交え、様々な事柄について討議や決定を行っております。この体制は次期代表が決定しても続ける予定です。

「3つの事業」の1つ目『脱軍備・平和レポート』は役重新編集長の下、新しい筆者も加わり隔月発行を維持しています。2つ目の『ピース・アルマナック2024』の出版も無事に達成し、すでに正会員のみなさまのお手元に届いていると思います。現在は来年度の『ピース・アルマナック2025』の作業を進めています。そして3つ目の「脱軍備・平和基礎講座」はテーマを「戦争をとめる、戦争をしない」として今年度もZoom配信で8回開催となり、多彩な講師を迎え実施してきました。学生は無料。8回通しの資料代を納めて頂けると既に終わった講演も後日録画で見られます。

さて話は変わりますが衆議院選挙が行われ、第二次石破内閣が組閣。常任委員会の半分の委員長が野党側となり、予算委員会委員長は立憲民主党の安住淳氏となるなど、日本の政治は変化の兆しが見えてきました。アメリカではドナルド・トランプ候補が二度目の大統領として選出され、政権交代は他の国でも行われてい

ます。それらが核兵器削減や軍縮、イスラエルやウクライナの問題などにもたらす変化は乏しいかもしれませんが。しかしノーベル平和賞を受賞した被団協の様に、続ける事が大事であると教えられた通り、ピースデポの活動もまた、続ける事が第一であると確信します。

ところで先に述べました「7つの柱」について最近、書いていない事に気づきましたので、書き出してみよう。

1. 市民の活動に役立つ、平和問題のシンクタンクをめざします。
2. 軍事力が平和の担保となる常識が支配する世界の現状を変えるために、世界のNGOと連携した活動をめざします。
3. 日本の市民が、平和のために果たすべき役割を意識し、それを追求する活動をめざします。
4. 一次資料に基づく正確な情報、分かりやすい分析を重視した活動をめざします。
5. 防衛・外交に関する行政の情報公開を前進させることをめざします。
6. 草の根活動と専門家集団の新しい協力関係をめざします。
7. 「法人化」を活かし、平和活動NGOの社会的評価を高めることをめざします。

改めて読むと何とかクリアした部分や、まだ未達成な部分もあります。しかし続ける事が大事という教訓を得ていますし、これからも続けますので、皆様からのご支援、ご協力を引き続き賜りたくよろしくお願い致します。

以上

活 動 報 告

役重研究員をジュネーブに派遣

(2024年7月27日～8月2日)

今年7月末、ジュネーブに於いて「第26回NPT再検討会議第2回準備委員会」が開かれ、NGOによるサイドイベントが開かれる事もあり、ピースデポ7本の柱の2番目に掲げる世界のNGOとの連携のため、新たな研究員である役重善洋を7月27日より8月2日までジュネーブに派遣しました。

既に詳細な報告は『脱軍備・平和レポート』第29号にありますが、傍聴した会議や参加したイベントをあらためてかいつまんでみますと、

- ・7月29日午前。中東非核・非大量破壊兵器地帯の早期設立を求めた1995年決議の討議を傍聴。
- ・7月29日昼のサイドイベント。化石燃料に関する不拡散条約を目指すキャンペーンに参加。
- ・7月29日午後。準備委員会「核の平和利用」に関する討議を傍聴。この日最後の「反論権行使の時間」でアメリカが午前の会議でイスラエルに対する「バランスを欠いた批判」に遺憾の

意が示された。

- ・7月30日午前。前日の討議の続きを傍聴。
- ・7月30日昼。サイドイベントは「核軍縮・不拡散議員連盟」(P NND)、「世界連邦運動・グローバル政策研究所」、「北東アジア非核兵器地帯3+3設立をめざす国際議員連盟」共催のイベントに参加。犬塚直史元参議院議員の講演を聴く。
- ・7月30日午後と7月31日午前の準備委員会では、NPT再検討プロセスの手続き面についての討議を傍聴。
- ・このほか29日夜にはピースデポと交流のあるNGO関係者との食事会に招かれた。

日程の都合で短期間での滞在となりましたが、実り多き派遣であったと感じています。最後に、会員の皆様より海外派遣カンパを約48万円をいただきました。ご寄付をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。



第26回NPT再検討会議第2回準備委員会で発言をするイラン代表 (2024年7月29日、国連ジュネーブ事務局)



北東アジア非核兵器地帯に関するサイドイベントで発言する犬塚直史元参議院議員 (2024年7月30日、国連ジュネーブ事務局)

横須賀ピースフェスティバルに恒例の出展

(2024年10月20日、横須賀市三笠公園)

山口大輔

昨年に続き開催された、反核・平和・反基地運動に取り組む市民団体や労働組合が開催する横須賀ピースフェスティバルに高木代表代行、湯浅理事、山中理事、渡辺研究員、山口で参加しました。団体ブースを出展しピースデポの活動を紹介しました。ピースデポの呉東監事、佐藤理事も地元の団体として出展しておられました。木元理事にも参加者としてお会いしました。例年この日は風が強いのが通例で、今年は風が強すぎて初めてテントを立てられないピースフェスティバルとなりました。みなさんいろんなものを飛ばして挙句の果てには紙幣まで飛んでいました。ただ気温が高めなのは救いで凌ぐことができました。参加は5回目くらいですが今回初めて同公園内にある記念艦三笠を見学しました。見学者が思いのほか多く、目に見える戦

艦より目に見えない平和が人気になるにはどうしたらいいのかが改めて考えさせられました。



団体ブースでピースデポの書籍を販売する山中、湯浅、高木、渡辺、山口の各氏 (2024年10月20日、横須賀市三笠公園)

[報告] 2024年度 脱軍備・平和基礎講座 第1回～第7回

2024年5月から11月にかけて第1回から第7回までの「脱軍備・平和基礎講座」がオンラインで開催されました。今年度の全体テーマは「戦争をとめる、戦争をしない」です。以下、講座の内容について私が印象に残った点を紹介します。

第1回講座（5月25日）は、君島東彦さん（立命館大学教授）に「安全保障を根源的にとらえ直す」というテーマで講義していただきました（『脱軍備・平和レポート』第29号参照）。講師は東アジアにおける共通の安全保障の枠組み（CSCA）を提唱するだけでなく、自ら日中韓の大学生平和対話に取り組み、実践している点が非常に印象的でした。

第2回講座（6月29日）では、青井未帆さん（学習院大学教授）に「戦争準備を進める日本」というタイトルでお話していただきました。近年は、国会での安保政策の論議で憲法論が論じられなくなっているという講師の指摘に驚くとともに、そうした状況下では、NGOが野党に対して、より積極的に安保政策に関する具体的アイデアを示す必要があるのではないかと感じました。

第3回講座（7月27日）は、山口雪乃さん（国際基督教大学2年生）に「対話を試みる被爆者たちの訪米ツアー」というテーマで講義していただきました（『脱軍備・平和レポート』

第30号参照）。被爆3世の若い山口さんが、被爆者とともにアメリカの若い世代に被爆の実相を伝えるというこの試みは、被爆体験を継承する方法として非常に斬新な取り組みだと感じました。

第4回講座（8月24日）は、「沖縄戦を学ぶ」というテーマで玉木利枝子さん（沖縄戦体験者）の体験を伺いました。89歳というご高齢にもかかわらず、10歳の時の沖縄戦の実体験を詳細に記憶しており、それを語ることで、反戦のメッセージを伝えようとしている姿に強い感銘を受けました。

第5回講座（9月21日）は、清末愛砂さん（室蘭工業大学大学院教授）をお招きして「パレスチナの人々の平和的生存権と日本の役割」というテーマで講演していただきました。2000年にガザを訪問した際の体験を多くの写真を使って語っていただき、ガザにおけるイスラエル支配の実情を一般市民の視点から理解することができ、非常に勉強になりました。

第6回講座（10月26日）は、「台湾有事と在日米軍」というテーマで川名晋史さん（東京科学大学教授）に講演をしていただきました。講師は長年にわたり在日米軍に関する膨大な一次資料に丹念に目を通しており、次代を担う本物の研究者だという印象を持ちました。今後も講演を依頼して、ぜひとも勉強の機会を持ちたいと思いました。

第7回講座（11月24日）は、去年に引き続き羽場久美子さん（青山学院大学名誉教授）をお招きして「ウクライナ、まず停戦を！」というテーマで講演していただきました。ウクライナの話もちろんありましたが、様々なデータにおいて日本が国際社会で急速に凋落しているにもかかわらず、日本のマスメディアはそれを報じないという指摘に強い印象を受けました。

第8回講座（12月21日）は、「実体化する日米韓安保協力体制」（講師：石坂浩一立教大学兼任講師）を予定しています。参加希望者は、ピースデポ HP (<http://www.peacedepot.org/>) よりお申込みください。（文責）渡辺洋介



第3回講座で講演する山口雪乃さん（2024年7月27日、講座の録画映像より。）

横浜市ふるさと納税制度「よこはま夢ファンド」を通したピースデポへのご寄付を！

「よこはま夢ファンド」は横浜市の24ほどある「ふるさと納税」制度の一つです。「11. 市民活動を応援したい！（横浜市市民活動推進基金）」という思いを実現できる画期的な基金（2005年創設）です。

2016年度から始めた「よこはま夢ファンド」を通じてのピースデポへのご寄付は2018年度から毎年約200万円前後で安定的に継続しています。2024年度は約205万円でした。ご寄付いただいている皆さまに深く感謝申し上げます。

●全国どこにお住まいでも、2,000円の負担でピースデポへ多額のご寄付が出来ます。（サラリーマンの方は、所得に応じて所得税・住民税控除が受けられます）

●ご寄付いただいた皆さんには、ピースデポからの返礼品と

して当該年の『ピース・アルマナック』、『脱軍備・平和レポート』をお送りします。

●横浜市以外の方には、横浜市より返礼品（シュウマイやビールなど）があります。

ちょっと面倒・とか、一時立て替えの負担がありますが、ぜひ一度トライしてみてください。

よこはま夢ファンドのweb（以下のQRコードから入れます）から寄附申し込みフォームを開いてお手続きください。インターネットを利用したクレジットカード払いが便利です。「ふるさとチョイス」に登録をし、手続きができます。



メディアに登場したピースデポ

- ① 米米臨界実験に対する梅林特別顧問のコメント掲載(中国新聞、2024年6月3日)
- ② 横田基地への米戦略爆撃機B-52の飛来に関する梅林特別顧問のコメント掲載(東京新聞、2024年7月2日)
- ③ 日米比の軍事協力強化に関する木元理事の講演掲載(神奈川新聞、2024年7月23日)
- ④ 「ピース・アルマナック2024」の発刊を伝える記事(神奈川新聞、2024年8月5日)

川新聞、2024年8月5日)

- ⑤ 日本被団協のノーベル平和賞受賞に対する梅林特別顧問のコメント掲載(中国新聞、2024年10月12日)。同じ記事が同日付で、北海道新聞、東奥日報、東北デリー、秋田さきがけ、信濃毎日新聞、神戸新聞、西日本新聞にも掲載。
- ⑥ 日本被団協のノーベル平和賞受賞に対する梅林特別顧問のコメント掲載(読売新聞、2024年10月12日)。⑤とは異なる内容。

①↓

米臨界前核実験 どうみるか

考 from ヒロシマ

「核の傘 依存 脱却 訴えて」

平和国家の現在地

冷戦以来 横田にB52

核抑止力の象徴 通告なく

米構想追従に警鐘

被爆体験 発信に敬意

被団協 ノーベル平和賞 県内関係者喜び

県職員月給引き上げ勧告

7720 軍事力強化に懸念

④↓

平和の危機を訴え

ピースデポ パレスチナ問題分析

2024

ピース・アルマナック

オピニオン

日本被団協に平和賞

「核使用のタブー」規範化

被団協 ノーベル平和賞 県内関係者喜び

県職員月給引き上げ勧告

7720 軍事力強化に懸念